

月報 シオン山

2025年6月1日発行 (No 417)

日本バプテストシオン山教会

〒803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

Tel (093) 561-0772 Fax (093) 561-0760 E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

【月間聖句】

あなたがたの上に聖靈が降ると、あなたがたは力を受ける。

そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、

また、地の果てに至るまで、私の証人となる。」

(使徒言行録 1章8節)

子どもメッセージを始めて

加藤英治

5月11日の礼拝から、「子どもメッセージ」が始まりました。いろいろな思いや意見、場合によっては期待もあると思いますが、私なりの思いと願いを書いてみたいと思います。

私は、昨年10月に、高崎教会伝道30周年記念礼拝に宣教者として招かれ、ほぼ20年ぶりに群馬県高崎の地を訪れ、教会や地域の懐かしい方々と再会してきました。そしてこの教会に与えられた数々の神の恵みを強く感じたことでした。

その中でも特に印象に残ったことの一つは、この記念礼拝やその後

の祝会などに、私がいた当時まだ小学生や幼稚園児など子どもであつた人たちが、もう立派な大人になって、様々な形で関わり奉仕しておられたことでした。関わりの濃淡の違いはありながら、それぞれの仕方で教会につながり続けていると感じました。これは、多くの教会で、教会員の子弟たちが、幼い頃は教会に通っていても大きくなると離れてしまうということを見聞きするにつけ、大変大きな恵みであり祝福であると思われました。

「その理由は?」と考えてみて、「その一つが、礼拝の中で子どもメッセージをやっていたことでは」と思われました。もちろん、人が教会に来て信仰を持ちつながり続けるというのは、どこまでも神の業であり、それはただ神の憐れみによって用いられたに過ぎないでしょうが、それでもそれは神の手だけの一つとして用いられたのではないかと思わされるのです。

当時高崎はまだ伝道所で開拓伝道の途上でした。「とにかくできることは何でもやってみよう」という意欲と希望に満ちていました。その中で、礼拝に子どもを連れて出席されるクリスチャン家族が多かったことから、最初の礼拝でいきなり「今から子どもメッセージをやります、子どもたちは前に来てください」と言って始めたように記憶しています。今から思うと「やややり過ぎ」というような形と内容でしたが、それでも毎週の準備を楽しく進めたように思います。それを七年間やりましたが、それがあるいはその子たちの信仰的な成長のため用いられたのかもしれないと、神様に感謝をしているところです。

私たちのシオン山教会にも、数人の子どもさんたちが主によって呼ばれ、集われています。そこに私は、神の御手と摂理を見るのです。「子どもメッセージ」をするのは、何よりもそのお子さんたちの信仰と成長のためです。神がかれらを招き、ご自分の存在と愛を知らせようと願っておられることを信じます。その神の愛と真実をお伝えしたいと切に願うのです。彼らがイエス・キリストの神を知り、信じ、信仰によって成長し生きようと願ってくれること、それが唯一の目的であり願いです。しかしながら、それがひいては私たちの教会が、すべてのあらゆる人を愛される神の祝福と喜びで満たされていくことにつながつていってくれたらとも願うのです。

どうぞ「子どもメッセージ」のためにお祈りとご支援をよろしくお願いいいたします。